

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	76人	算数	76人	理科	76人
第5学年	国語	86人	算数	86人	理科	86人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

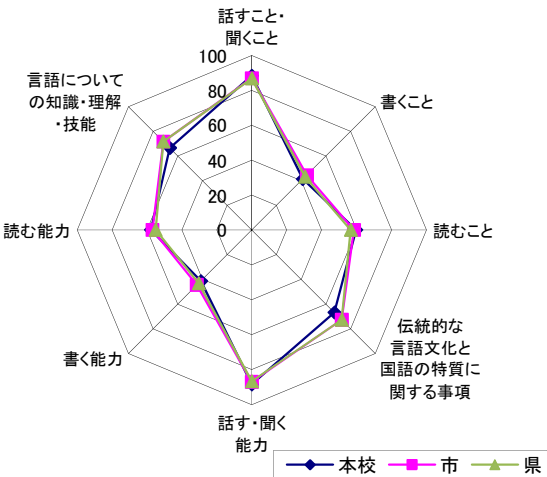
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.4	87.0	86.7
	書くこと	41.3	44.5	43.1
	読むこと	59.8	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.9	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	88.4	87.0	86.7
	書く能力	41.3	44.5	43.1
	読む能力	57.9	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	66.5	71.7	71.7



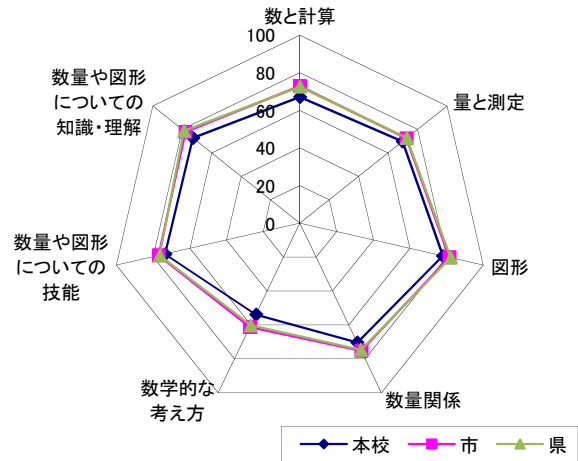
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、他領域に比べて高い。 ○ 話の中心に気を付けて聞いたり、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことが、大体できている。	・今後も、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞く力をつけるため、学習全般や生活の中で、短い言葉でメモを取る習慣をつけるように指導する。
書くこと	平均正答率は、他領域に比べて低く、また、市や県のそれより低い。 ○ 報告書の作成では、構成を理解することができていた。 ○ 手紙では、常体を敬体に書き替えることができていた。 ● お礼の手紙で、条件であるお礼の言葉をはじめに並べ替えて書けなかった。 ● お礼の言葉をはじめに並べ替えていたが、「手紙」内の言葉を、意味を変えて書いていた。	・今後、学習や学校行事で、招待状やお礼の手紙、問い合わせの手紙などを書くことが多いので、それぞれの書き方を継続して指導する。 ・作文を書くときには、何についての作文を書くのか作文の趣旨を明確にとらえ、趣旨に沿った文が書けるよう指導する。
読むこと	平均正答率は、他領域に比べて高く、市や県のそれよりやや高い。 ○ 説明文では、文と文のつながりに注意して、文章を読むことができていた。 ○ 物語文では、叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むことができていた。	・今後も、説明文の形式段落ごとの内容をまとめることができるような学習プリントを活用し、中心となる語や文をとらえて要点をまとめられるように指導する。 ・物語に興味・関心をもてるように、朝の読書タイムで様々な物語を紹介したり、学校図書館の積極的な活用を促したりする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、他領域に比べて低く、また、市や県のそれより低い。 ○ 第3学年配当漢字の読みは、大体できていた。 ● 第2、3学年配当漢字を書くことができなかった。 ● 主語と述語について理解できていなかった。 ● 漢字とへんのつくりなどの構成について理解できていなかった。	・今後、全授業において、習った漢字は積極的に漢字を書くことを意識させるようにする。また、漢字の書きの練習を繰り返すだけでなく、漢字辞書を使うことを奨励し、言葉の由来や漢字とへんのつくりの構成なども学習させるようにする。 ・主語と述語の学習では、単純な文やそれに形容詞などを付け加えて複雑な文を作るなどして、理解を深めるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.1	72.9	72.6
	量と測定	69.8	72.4	72.6
	図形	78.0	81.4	82.1
	数量関係	70.3	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	53.9	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	73.5	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	72.7	77.8	78.8



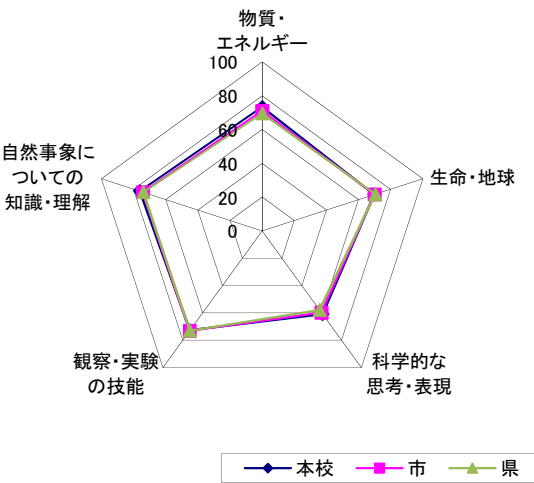
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本校の平均正答率は、県平均をやや下回っている。特に「3位数×2位数のかけ算」や「数直線上に示された分数」の理解が低い。 ○3位数+3位数の波及的繰り上がりのあるたし算や4位数－4位数の繰り下がり2回のひき算は、県の平均正答率よりやや上回っている。	・基本的な計算技能の定着に差が見られる。朝の算数スキルタイムや宿題などで、これまでの学習について復習させる必要がある。また、正答率の低いそれぞれの学習について、新しい単元に入る前に復習させる時間を確保しながら学習に取り組ませていきたい。
量と測定	●本校の平均正答率は、県平均をやや下回っている。特に、「はかりに示された重さを読み取ることができる」に関しては、県平均よりも正答率が高いが、「身近にあるものの重さを推察することができる」での正答率が低い。 ○はかりに示された重さを読み取る問題では、県の平均正答率を大幅に上回った。時刻と時間の問題も県のそれと比べて上回った。	・これまで具体物を使って計測する体験的な学習を進めてきた。しかし、身近にあるものの重さを実感できない児童もいるので、はかりで実際に重さを図る活動に時間をかけ、実生活にもつながるように支援していきたい。
図形	●本校の平均正答率は県平均をやや下回っている。特に「球の半径と直径の関係を理解している」の問題での正答率が低くなっている。 ○正三角形の定義を問う問題では、県の平均正答率をわずかに上回っている。	・前学年の三角形についてはよく知識が定着しているが、円と球については、理解にむらが見られる。学習プリントやドリルなどを活用して復習する機会を設け、知識の定着を図るようにしていきたい。
数量関係	●本校の平均正答率は、県平均をやや下回っている。特に「□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ」問題や「わり算の文章問題を解くために除法の式を立式し、その式から正しい答えを求めることができる」といった問題への理解度が低くなっている。 ○棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を選ぶ問いでは、県の平均正答率よりやや上回っている。	・文章問題の立式が苦手な児童にとっては、□の式を見てそれに合った文章問題を選ぶことは難しい。今後、まとめの時間などを用いて、四則の意味を再確認し、文章問題を解くときのキーワードに着目をさせて立式させたいと考える。そのうえで、□を使った式の表し方や求め方などを理解させ、活用できるようにしていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.4	71.1	69.6
	生命・地球	69.8	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	60.8	59.8	57.8
	観察・実験の技能	72.7	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	76.2	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、他の領域と比べて高く、また、市や県のそれより高い。 ○「ものの重さ」では、物は体積が同じでも、重さの違う物があることを理解していた。 ●「ものの重さ」では、元が同じ物なら、形が変わっても重さは変わらないことを理解していなかった。 ○「光のせいしつ」では、虫眼鏡で集めた光の明るさやあたかさの違いを理解していた。 ○「電気の通り道」では、「回路」の意味がわかり、電球やソケットで電気が通るところや同線の安全なつなぎ方を理解していた。	・今後も、同じ実験を繰り返しやったりみんなのやった実験のデーターを集めたりして、実験の結果を吟味するとよいことを指導する。また、その結果で共通していることなどが考察になることも指導する。 ・元が同じならば形が変わっても重さは変わらないことについて、理解が図れるように、身近な例を挙げて丁寧に指導する。
生命・地球	平均正答率は、他の領域と比べてやや低く、また、市や県のそれよりやや低い。 ○「身近なしぜんのかんさつ」では、昆虫が特定の場所にいる理由を説明することができた。 ●「太陽と地面」のようすでは、方位磁針の正しい使い方を理解できていなかった。 ●「太陽と地面のようす」では、温度計の目盛りを正しく読むことができなかった。	・今後、実験道具がたくさんある場合は、個々に実験をさせたり、二人一組で交代に実験させたりするなどして、実験道具の使い方に慣れるようにする。また、実験道具がグループ分しかない場合は、同じ児童が実験を進めることがないように、交代で実験をするようにさせる。 ・方位磁針の使い方については、月や星の観察の仕方の中で繰り返し、正しく使えるように指導する。 ・温度計の目盛の読み方については、日常の中で目盛の読み方を指導し、正しく読めるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習や宿題に関しては、「家で学校の宿題をしている」と「学校の宿題は自分のためになっている」という設問については、県や市より肯定割合がやや低くはなっているが、その他の設問に関しては県や市と比べると肯定割合が高くなっている。家庭での学習については、かなり習慣づけがなされており、関心が高いように感じられる。これからもこうした学習習慣を大切にしていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んでさんかしている」という設問では肯定割合が県よりも高くなっている。また、クラスの友だちとの間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答している児童は県よりも大きく肯定割合が高くなっている。ここ数年来、本校で熱心に取り組んでいる「学び合い」の活動がこのような結果をもたらしていると考えられる。今後も継続していきたい。

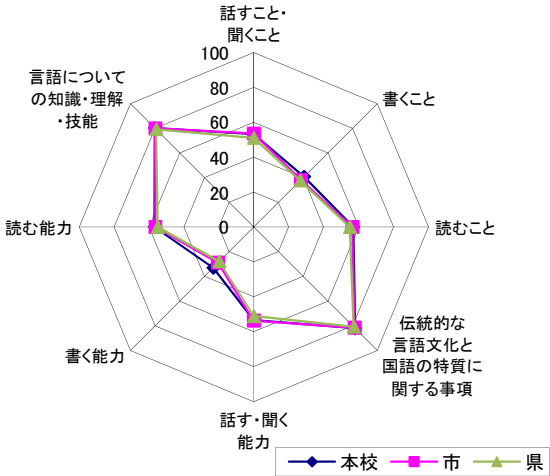
○自分自身のことについては「自分にはよいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」などについての肯定割合が県を大幅に上回っている。自己肯定感が高いと言える。今後も児童のよさを認めることはもちろん、児童同士も自他のよさを認め合えるような雰囲気づくりをしていきたい。

●「勉強していて「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることもある」という設問では、県の肯定割合よりやや低くなっている。現代社会の象徴ともいえるところもあると思うが、学校ばかりでなく、家庭にも啓発を促し、いろいろな体験をさせていく必要がある。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	53.3	53.6	51.0
	書くこと	40.7	38.1	37.6
	読むこと	56.9	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.0	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	53.3	53.6	51.0
	書く能力	33.0	29.0	28.0
	読む能力	56.9	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	80.3	79.9	79.1



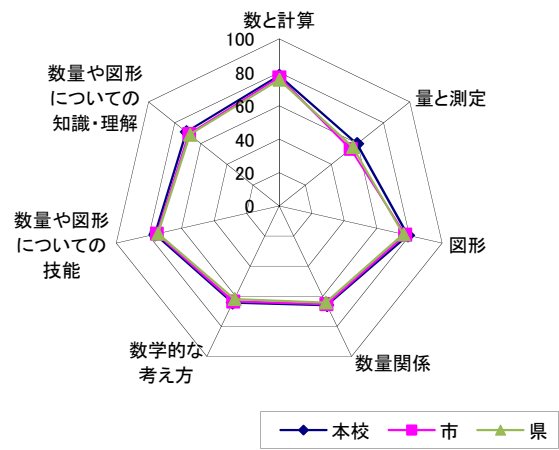
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○司会者の話合いの進め方の工夫についての理解項目で県の正答率を大幅に上回った。 ○発表するために調べたことの要点をまとめるでは、県の正答率を上回り、さらに要点をまとめて書くでは、大きく上回った。 ●話合いの内容の聞き取り(互いの考えの共通点や相違点を整理して聞く)では、県の正答率をやや下回り、課題が見られる。	・授業の始めに「聴写」を取り入れ、話している内容を正確に聞き取る力を高めていきたい。 ・授業の中で、話合いの時間を設け、互いの話を整理して聞く訓練をしていく。 ・メモを取りながら聞き取りをする機会を設定し、大事なことを落とさずに聞く訓練をしていく。 ・話を聞く際は、聞くポイントを示し、そのポイントを意識して聞けるよう支援する。
書くこと	○作文の問題では、県・市の正答率を上回っている。与えられたテーマに対する記事を、条件に合わせて書くことが、県の正答率を上回った。	・国語スキルの時間に「視写」を取り入れ、作文用紙の基本的な使い方を身に付けさせる。 ・日常の出来事や身近な話題について意図的に書かせる機会を設け、書くことに慣れさせるようにしていく。
読むこと	○説明文の内容の理解では、どの項目も県・市の正答率を上回っていた。特に、目的や必要に応じて、文章の内容を読むことでは、県の正答率を大きく上回り、中心となる語や文を捉えることでも上回っていた。 ●物語の問題では、叙述を基に、場面の様子を読むことの正答率が県の正答率よりやや低く、課題が見られる。	・「○段落の～という文から―と考える」というように、叙述に戻って自分の考えの根拠となる文章を見つけ出せるよう「叙述に戻る」という指導を継続していく。 ・何が問われているのかをはっきりと認識できるよう、発問を明確に示し、問いの答えが導き出せるように訓練していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○言葉の学習は、県・市と概ね同じ正答率であった。漢字辞典の使い方では、県の正答率を大きく上回った。 ○第4学年配当漢字の読み方では、「貨物」「告げる」が大きく上回った。 ●第3・4学年配当漢字を書くでは、「希望」「写す」が県の正答率より下回っていた。	・国語スキルの時間に「視写」を取り入れ、文章の中で習った漢字を使えるようにしていく。 ・漢字のミニテストを継続して行い、該当学年の配当漢字の定着を図る。 ・活動のふり返りや日記などを書く機会を設定し、文章の中で習った漢字を使えるよう指導していく。 ・家庭学習として新出漢字や新出漢字を使った熟語の漢字練習に取り組みせ、語彙を増やしたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.1	77.0	75.6
	量と測定	59.6	54.8	56.5
	図形	79.1	77.4	76.3
	数量関係	66.0	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	64.3	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	76.3	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	71.1	69.1	68.4



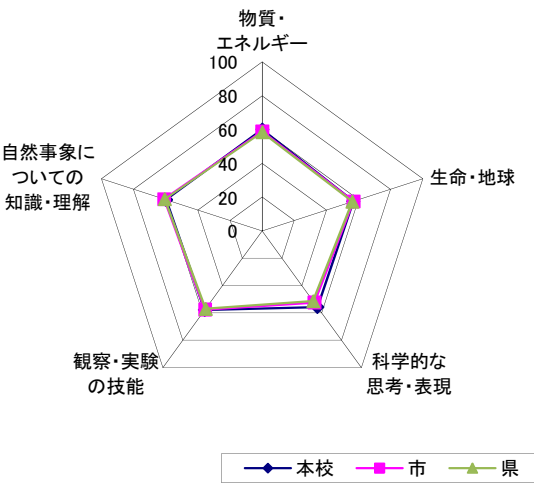
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ 数と計算の正答率は、市や県の平均をわずかが上回っており、概ね良好である。 ○ 億と兆で書かれた数を数字で書き表す問題は、正答率が90%を超え習熟率が高い。 ● 小数の仕組みや商の小数点の位置は理解できているが、小数の除法計算において課題が見られる。 ● 図を使って倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶ問題に課題が見られた。	・ 授業や算数スキルタイム(朝の学習の時間)などを通して、小数の仕組みや乗法・除法のきまり、文章問題での立式のポイントを再確認し、定着を図っていききたい。 ・ 前学年の復習を時折入れたり、数直線をもとにして考えたりすることで理解できるように支援していく。
量と測定	○ 正答率は、市や県の平均より上回っているが、他領域より低い。 ○ 面積の公式を使った計算は、よくできている。 ● 面積の単位、平方センチメートルと平方メートルの関係の理解が不確かである。 ● 教室のおよその面積を求める問題の正答率が低い。	・ 面積のように、公式で求められるような問題は、正答率が高いので、引き続き基礎的な知識・理解の定着を図っていききたい。 ・ 単位の換算が必要な問題では、換算が不確かな児童が一部見られるので、授業や算数スキルの時間などを通して、再確認しておきたい。 ・ 身近なものの面積を求める問題では、正答率が下がるので、公式を使える部分が実感を伴った理解につながるよう再確認しておきたい。
図形	○ 正答率は、どの問題も80%を超え、市や県の平均より上回っており、良好である。 ● 四角形と対角線の問題の正答率がやや低めである。	・ 図形に関する基礎的な知識や技能は十分身に付けてきているといえるが、角度の捉え方や展開図の見方などを、授業中の復習などを通してさらに定着を図っていききたい。 ・ 図形を、時と場に応じて、直感的にとらえたり、方眼上で長さ・角度などを正確にとらえたりできるよう、学年のまとめ時にもう一度取り組ませ定着させる。
数量関係	○ 正答率が市や県の平均を上回っており、伴って変わる二つの数量関係を問う問題の正答率は90%を超えている。 ● 折れ線グラフと表についての問題では、目盛の違いから正しくない理由を言葉や数で説明する問いの正答率が低かった。	・ 算数スキルタイムや授業での復習を通して、計算の工夫や表とグラフの見方などを確認するとともに、単元のまとめの時に思考を促す文章問題に多く触れさせ、友達同士で聞き合い、伝え合う活動を通して思考・判断・表現する力を育てていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.1	59.0	58.3
	生命・地球	56.7	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	55.7	52.5	51.4
	観察・実験の技能	57.9	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	59.8	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○正答率は県や市よりやや上回っていた。 ○熱せられた空気は上昇することから、エアコンの吹き出し口の向きをどのようにすることで部屋が温まることを推測する問題では、県の正答率を大きく上回っている。 ○水が氷になるときの温度変化や体積が増えることについての知識の習熟度は高くなっている。 ●水が熱せられた部分が上方に移動して全体が温まることを問う問題では、県の正答率を下回っている。 ●電気の流れを「電流」と呼ぶことを多くの児童が正答できていない。	・空気と水の性質について、相違点に注目しながら復習を行っていったり、小テストを行ったりして学習の定着を図っていききたい。 ・理科で使われる用語について、一つ一つ知識として覚えさせ、実験の予想や結果、考察からまとめなど、その用語を使って書くことで、用語の意味の定着を図っていききたい。 ・実験では、課題から手順そして予想立てることで、意欲的に取り組めるよう支援していく。
生命・地球	○正答率は県や市とほぼ同等である。 ○人の背中がまるく曲げられる理由を説明する問題では、県の正答率を大きく上回っている。 ○グラフから、気温とヘチマの茎の伸びとの関係を説明する問題では、県の正答率を大幅に上回っている。 ○星や星座の問題では、星座早見の使い方をよく理解している。 ●腕を曲げたり伸ばした時の筋肉の様子を問う問題の正答率は県の平均より下回っている。 ●方位磁針の使い方についても、正答率が県や市と比べて下回っている。	・グラフを読み取る問題では、実際に観察したり育てたりする体験を通すことでより知識の定着を図っていききたい。 ・実際に見ることができない部分でも、模型や映像など視覚的な教材を使うことで、できるだけ体験を通した学習を行っていく。 ・方位磁針などはこまめに使うことで、使い方の定着が図れると思うので、全員が行える時間を確保し、一人一人支援していく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した児童の割合は80%を超えている。会話科を中心に各教科においてコミュニケーション力を付け学び合う力が高まるよう小集団での話し合い活動を中心にした授業作りの取り組みを継続してきたことが、成果につながっていると考える。今後も各教科においてより確かな理解、深い思考に繋げていくために、小グループで考えを伝え合ったり教え合ったりする活動の充実に努めたい。

○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」と回答した児童の割合は市や県より上回っている。授業の最初に目標を示し子どもたちに意識させ、見通しを持たせるようにし、その目標に照らして授業の中で振り返る活動を行ってきたことが成果につながってきていると考える。

○地域学校園での取り組みとして家庭学習の推進を進めているが、「家で、自分で計画を立てて勉強している。」と回答している児童の割合は市や県の割合より10ポイントも上回っている。また、「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答している児童の割合も市の割合より10ポイント上回っている。高学年となり、自主学習への取り組みを進めてきたが、宿題だけでなく自分で考えて取り組もうとする意識の高まったと思われる。今後は、宿題と自主学習を合わせて60分以上を目標とし、家庭での協力のもと家庭学習の充実や習慣化を図れるよう努めたい。

○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している。」と回答した児童の割合は、9割を超え市や県の割合より高く、優しく相手の気持ちを考えながら行動している児童が多いことがうかがえる。「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」と回答した割合は86%、「自分は家族の大切な一員だと思う」と回答した割合は91.9%で、自尊意識は高いと考えられる。今後も児童のよいところを期を逃さずに褒め励まして自信をもたせることで、より周りの友達の気持ちを考えた行動がとれるように支援していきたい。

●「見てはいけないサイトにつながらないようにしていますか。」の設問に対する肯定回答の割合は大変低い。インターネットを家庭で使う頻度など状況で変わってくるが、インターネットによるトラブルや犯罪などに巻き込まれないために、危険性などを十分理解させていくことが大切である。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」の設問に対する肯定回答の割合は市や県の割合よりやや高いが、クラスの前で話すことが苦手な児童が多い。少人数の中で伝え合う活動を多く取り入れ自信をもたせ、積極的に表現できるよう指導していきたい。